１３　小野地域の景観

①小野地域の概要

１　自治区の成立（※1～2 は『緒方町誌　区誌編』を参考にした）

江 戸 期	岡藩領河宇田組。小野村、野中村から成る。
明治 8 年(1875)	小野村と野中村が合併し鮒川村となる。
明治 22 年(1889)	町村制実施により、南緒方村大字鮒川となる。
昭和 25 年(1950)	町制施行により、緒方町大字鮒川となる（行政区は、小野）。
平成 17 年(2005)	町村合併により、豊後大野市緒方町鮒川となる（行政区は、小野）。

※時代により、野中・野仲と名称が混在。

２　主な出来事

承応元年(1652)	野仲井手開削開始。　※江戸時代は井手、明治以降は井路と呼んだ。
承応 3 年(1654)	野仲井手竣工（現、三区井路）。
宝暦 12 年(1762)	小野村の田井田で、岡藩主が鶴の飛来を見物。
明治 14 年(1881)	野仲井路（現、三区井路）取水口付近を岩盤掘削し現在の井路の形になる。
明治 14 年頃	野仲井路の水路橋竣工。
明治 25 年(1892)	南緒方尋常小学校開校。
明治 44 年(1911)	緒方橋（アーチ式石橋）竣工。
大正 10 年(1921)	野仲井路堰堤の改修工事竣工。
昭和 21 年(1946)	明正井路徳田補水線竣工。
昭和 52 年(1977)	県営圃場整備完工。
昭和 63 年(1988)	小野公民館竣工。

３　小野地域の構成・人口など

組合名	木下、中園、泉、平井、新橋、
戸数・人口	56 戸、138 人（令和元年 12 月）

②小野地域を潤す井路と水田景観の成立

小野地域は、緒方川の南側に位置し、西は野仲区、東は知田区、北側に緒方川を挟んで下自在・馬場区がある。小野地域の西端を清田川が北東方向に流れ野仲地域との境界を成し、緒方川に合流している。

小野地域のうち徳丸・八反田・斗代は、緒方川を源とする三区（野仲）井路によって灌漑されている。その南側の丘陵地は、神原川（緒方川の支流）・徳田川を水源とする明正井路（鮒川線）によって潤され、棚田が形成されている。徳丸・八反田・斗代の広大な圃場は、承応 3 年に通水した野仲井手（現三区井路）による灌漑である。南側の丘陵地帯は、大正 13 年(1924)に竣工した明正井路によって灌漑される。更に昭和 21 年に明正井路徳田補水線が完工し、大坪・戸ノ上などが水田化している。

写真 126 は小野地域を潤す井路線と圃場を示したものである。この写真から、明正井路の末流が三区（野仲）井路に流入していることがわかる（黄色○の地点）。ここでも他地域と同様に、井路の水を無駄にしない仕組みが採られている。

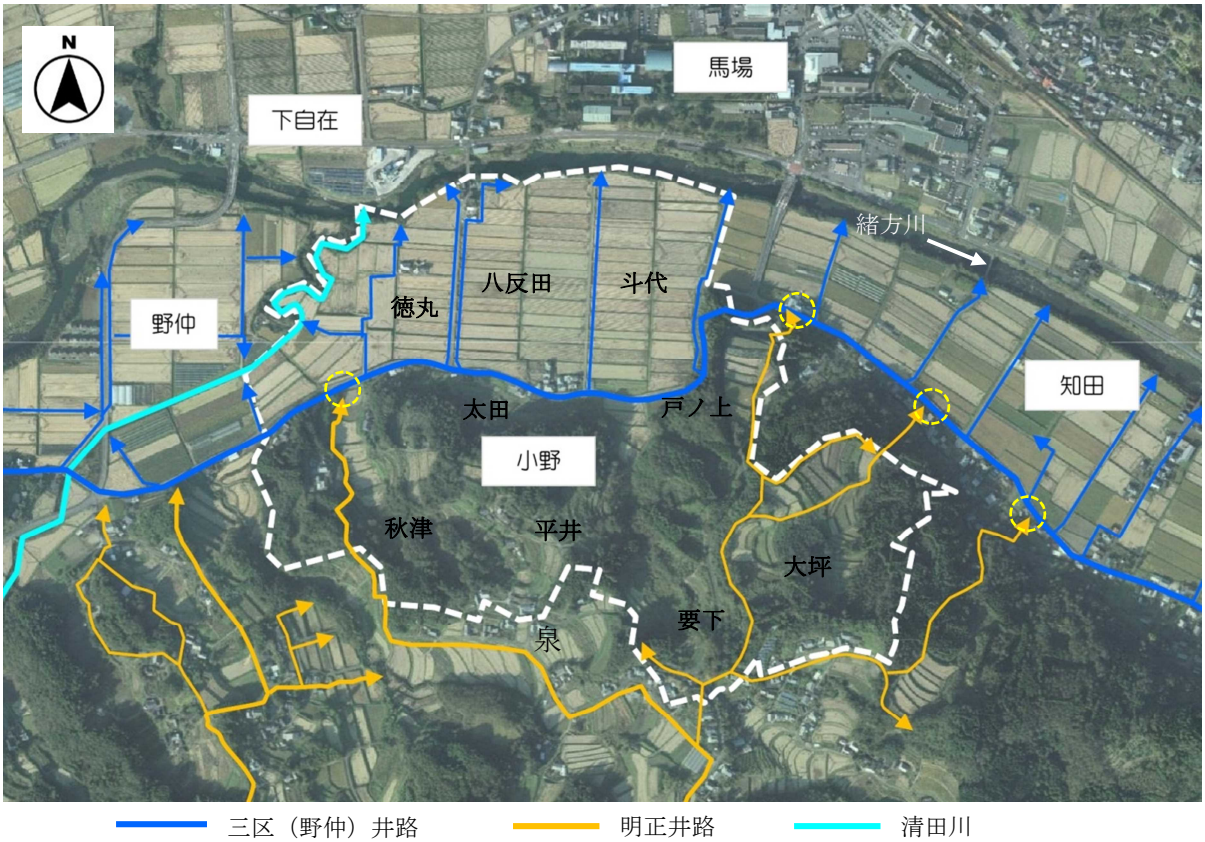


写真 126　小野地域の位置と井路幹線図

③新・旧字図から見る小野・野仲地域の圃場

図 77 は明治 21 年調製の字図である。小野・野仲地域は、明治 8 年に合併し鮒川村となった。現在の行政区は小野と野仲に分かれている。小野地域のうち、徳丸・八反田・斗代は明治 21 年当

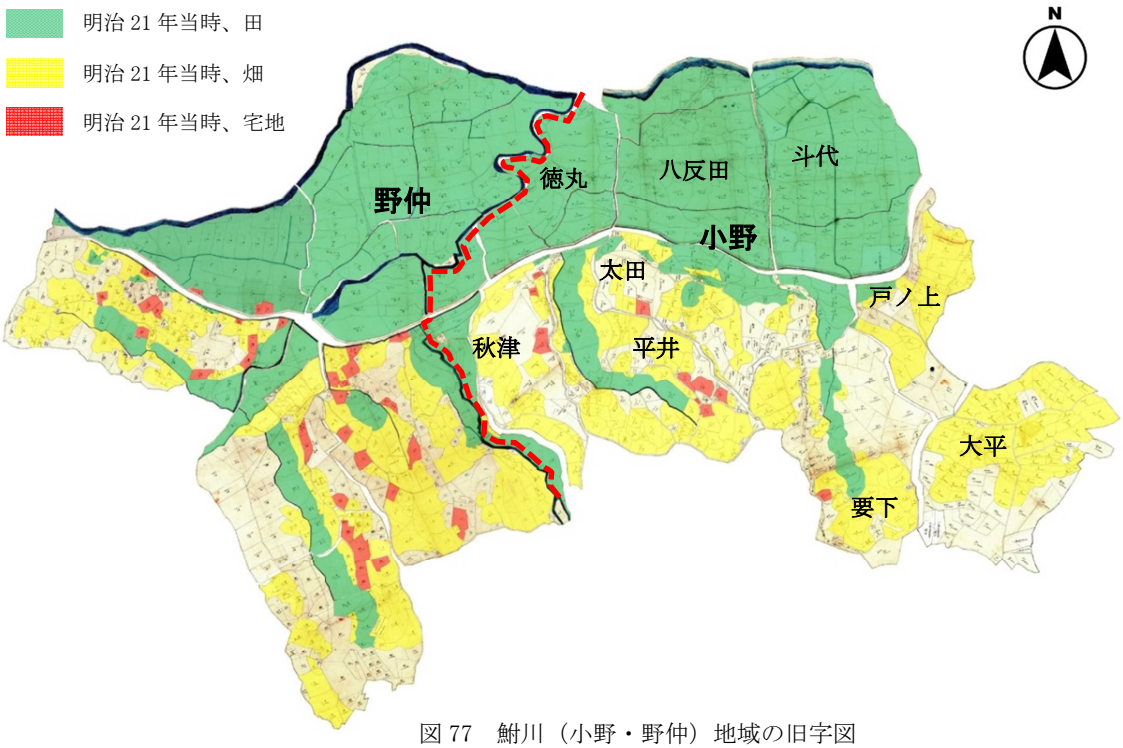


図 77　鮒川（小野・野仲）地域の旧字図

時、既に水田化していることがわかる。野仲地域から連なる野仲井手（現三区井路）による灌漑である。図 77 の秋津・平井・要下の一部は、明治 21 年段階で既に水田化している。ここでも野仲地域と同じように自然湧水を利用し水田を営んでいたのであろう。

図 78 は、現在の地籍図に着色したものである。明正井路の通水により、大平や戸ノ上で水田面積が拡大している。

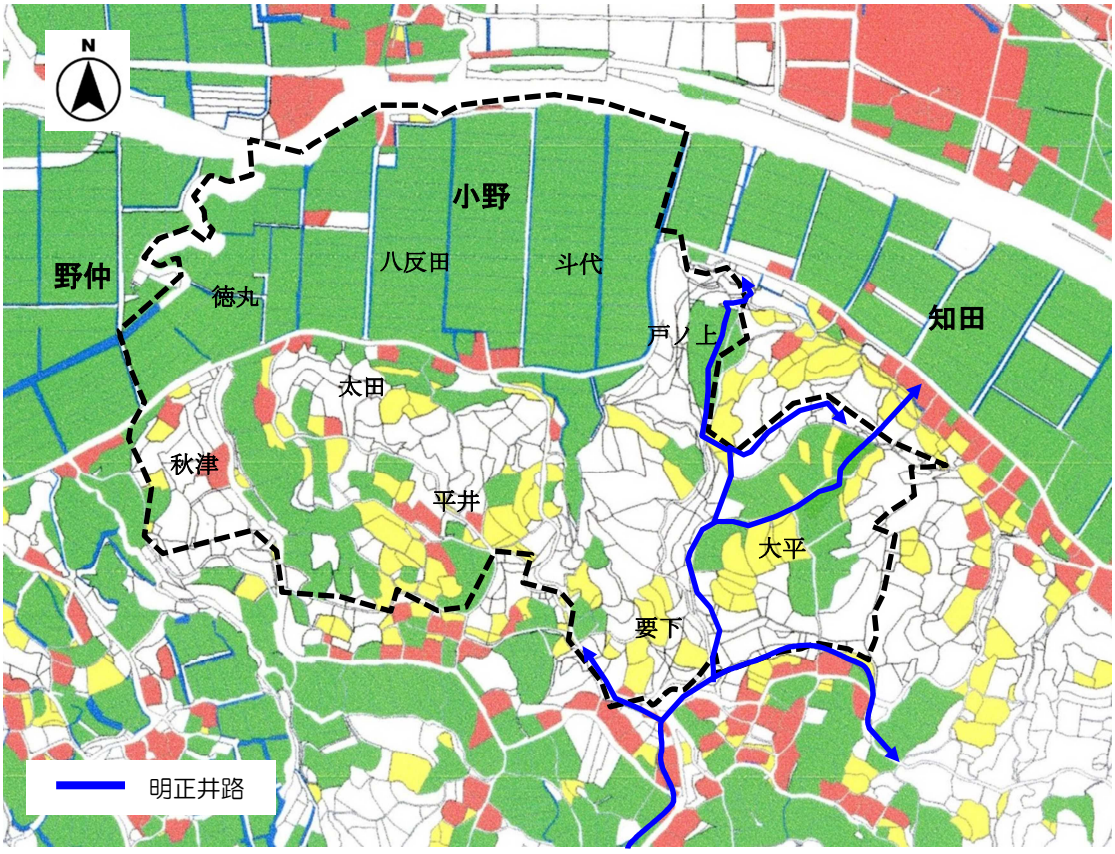


図 78　鮒川（小野・野仲）地域の地籍図

④圃場整備前の野仲・小野地域の空中写真

写真 127 は昭和 51 年の小野地域の空中写真である。隣接する野仲地域の段丘上では圃場整備が完了しているが、小野地域の徳丸・八反田・斗代では着手されておらず、条里型区割のような畦畔が確認できる。

段丘南側の丘陵地域（戸ノ上・要下・大平）には、夥しい棚田が営まれており、見事なものである。しかしながら、現在は、野仲地域と同様、棚田の減反・荒廃が進行している。

写真 127　小野地域の空中写真（地理院撮影）

⑤小野地域の景観の構成要素

小野地域は、三区（野仲）井路・明正井路の 2 井路によって灌漑される地域である。緒方川により形成された段丘が三区（野仲）井路により灌漑され、南側丘陵地帯は明正井路によって灌漑され棚田が営まれている。三区井路沿いに民家が立ち並ぶが、対岸の上自在や下自在のように列を成して住宅が並ぶ景観ではない。そのため、三区井路沿いの民家はクンバ（汲ん場＝汲み場）を必要としなかったようで、確認できなかった。民家の大半は、丘陵地帯に多く営まれている。以下に、景観の構成要素を示す。

表 18　小野地域の景観の構成要素

番号	要素名	写真	説明
1	要神社		祭神は、武甕槌神・菅原神など。天正年間に三代河内守重家が武運長久のため創建したといわれる。大友氏・中川氏の崇敬が厚かった。 社殿の建立時期は不明。毎年秋分の日に開催される緒方五千石祭に神輿が御幸する。
2	小野五輪塔（市指定有形文化財）		高さ2.2mもある巨大な五輪塔で、台座に金剛界四仏の梵字が刻まれる。製作年代は不明。地元では虎御前の墓と伝承され妊婦が参拝すると安産になるという伝承がある。
3	三区井路の岩鼻隧道		小野・知田間に、台地が緒方盆地の北方向へ突出している「岩鼻」と呼ばれる場所がある。三区（野仲）井路が突出部分に沿わずに隧道を掘って下流の知田地域に通じている。 素掘りの隧道で、井路開鑿の歴史を物語る場所として貴重。
4	岩鼻の六字名号		岩鼻という場所に凝灰岩の岩壁があり、「南無阿弥陀仏」の六字名号が彫られている。ここでは怪奇現象があったため、知田集落の田島家が寛政年間に京都東寺の僧侶に依頼し書をいただき、それを彫刻し法要を営んだ。その結果、怪奇現象は収まり、人々は安心したという。

番号	要素名	写真	説明
5	徳丸城跡		徳丸城は、元亀天正の頃緒方の一族徳丸氏が築城し、薩軍を迎えて激戦が行われた古戦場であると伝承される。緒方盆地を見下ろすことができ、よい眺望である。
6	緒方橋碑		明治 42 年に完成した緒方橋の記念碑。緒方村・南緒方村間の交通の不便を解消するために建設されたことが記されている。 緒方川に架かるアーチ式石橋の中で最も古い。

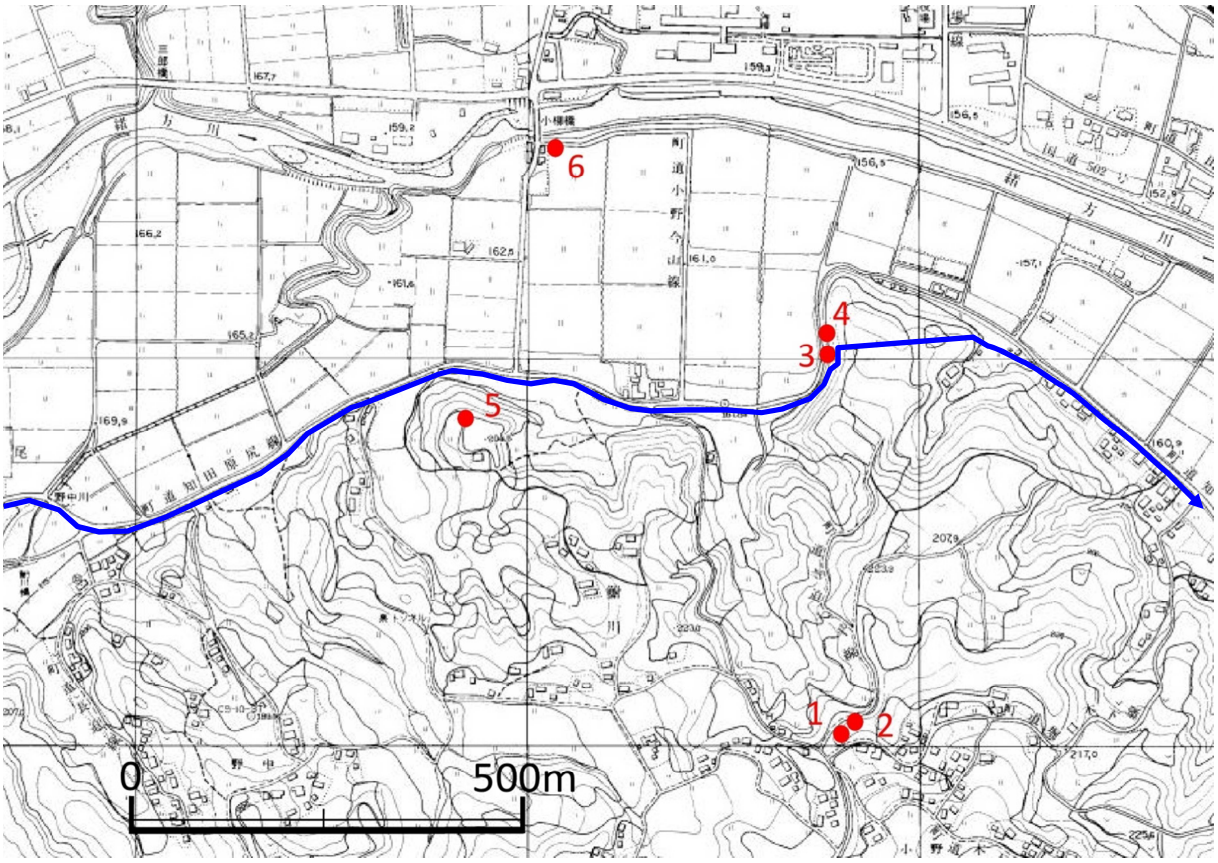


図 79　小野地域の構成要素の位置図

１４　知田地域の景観

①知田地域の概要

１　自治区の成立（※1～2 は『緒方町誌　区誌編』を参考にした）

江 戸 期	岡藩領河宇田組知田村。
明治 22 年(1889)	町村制実施により、南緒方村大字知田となる。
昭和 25 年(1950)	町制施行により、緒方町大字知田となる。
平成 17 年(2005)	町村合併により、豊後大野市緒方町知田となる。

２　主な出来事

承応元年(1652)	野仲井手開削開始。　※江戸時代は井手、明治以降は井路と呼んだ。
承応 3 年(1654)	野仲井手竣工（現、三区井路）。
宝暦 12 年(1762)	小野村で岡藩主が鶴の飛来を見物の後、知田村佐藤小庄屋宅で休憩。
明治 14 年(1881)	野仲井路（現、三区井路）取水口付近を岩盤掘削し現在の井路の形になる。
明治 22 年(1889)	南緒方村役場が知田に置かれる。
大正 11 年(1922)	鳴瀧橋(5 連のアーチ式石橋)竣工。
昭和 26 年(1951)	東仙寺橋（沈下橋）竣工。
昭和 52 年(1977)	県営圃場整備着手、翌年完工。
昭和 62 年(1987)	知田公民館竣工。
平成 4 年(1992)	洪水で流失した東仙寺橋（沈下橋）竣工。
平成 5 年(1993)	台風 13 号の洪水で、鳴瀧橋が大幅に毀損。翌年修復完了。

３　知田集落の構成・人口など

組合名	堀口、年ノ神、宮ノ下、尾崎
戸数・人口	56 戸、121 人（令和元年 12 月）

②知田地域を潤す井路と水田景観

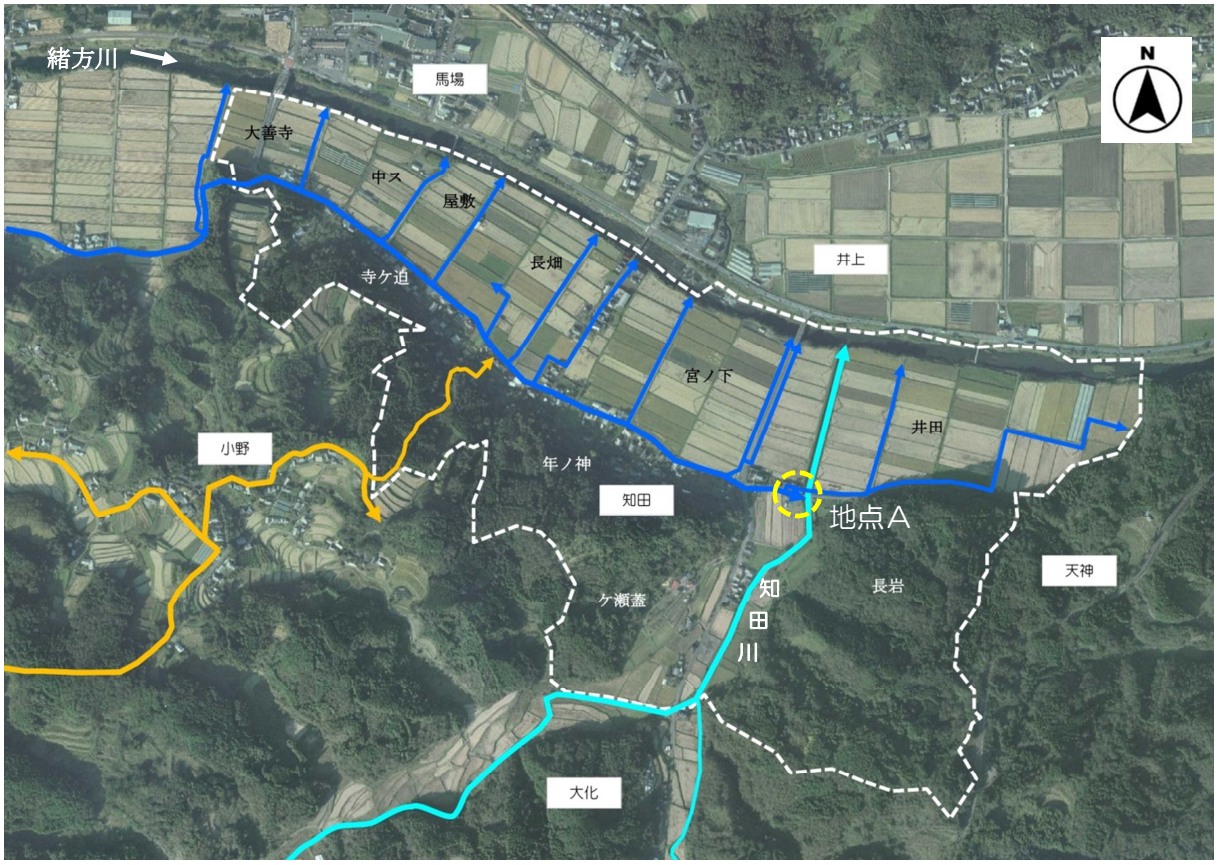
知田地域は、緒方川の南側に位置し、西側は小野区、東側は天神区、緒方川を挟んだ北側に馬場・井上区がある。知田地域の宮ノ下・井田の間には知田川が北流し緒方川に合流している。

知田地域のうち大善寺・中ス・屋敷・長畑・宮ノ下・井田は緒方川を源とする三区（野仲）井路（承応 3 年に通水）によって灌漑されている。

知田集落は、三区（野仲）井路沿い・知田川沿い・長畑～宮ノ下間の道路沿いに家が立ち並ぶ。集落の南西側丘陵地帯には、水田はほとんどない。

写真 128 は、知田地域を潤す井路線と圃場を示したものである。昭和 52～53 年にかけて圃場整備が完了したため、三区（野仲）井路幹線からの圃場への供給は、緒方川に向かって直線的な支線から行われ、非常に効率のよい圃場となっている。

原尻地域から野仲、小野地域を経由し知田地域を潤す野仲井路の流れは、最終的に緒方川支流の知田川に流れ込む（写真 128 の地点Ａ）。地点Ａのすぐ上流にある分岐点からは支線が分岐し、知田川を渡河して井田の圃場を潤している。



三区（野仲）井路　　明正井路　　知田川

写真 128　知田地域の位置と井路幹線図

写真 129 は、昭和 51 年の知田地域の空中写真である。圃場整備が行われていないので、条里型地割と思しき区画が残されている。緒方盆地のうち、緒方川左岸にある上自在・下自在・井上地域は、条里型地割が写真 129 の範囲Ａのように、ほぼ東西方向に基軸が延びている（写真 129 の破線）。範囲Ｂを見ると地割の基軸は、北西から南東に向いている。これは、緒方川方向に傾斜する地形の状態に合わせて地割を行ったものと推定する。

写真 129 の知田川は写真 128 の流路と全く異なる。これは、たびたび氾濫する知田川を、圃場整備の際に直線で緒方川に流入するように、流路変更工事を行ったためである。

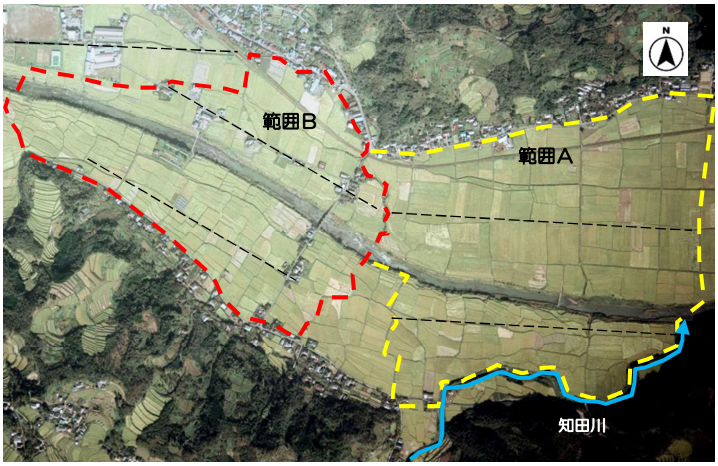


写真 129　知田地域の空中写真（Ｓ51 地理院撮影）

③新・旧字図から見る知田地域の圃場

図 80 は明治 21 年調製の知田地域の字図で、図 81 は現在の地籍図である。図 80 を見ると知田地域の宅地はほとんど野仲井路（現三区井路）沿いにある。大善寺から井田までの野仲井路と緒方井路に挟まれた圃場は完全な水田地帯で、宅地が全くない。図 81 を見ると、年ノ神から長畑に

かけて宅地が道路沿いにできている。鳴瀧橋が大正 11 年に完成し主要な道路となったため、街道が宅地化したのであろう。

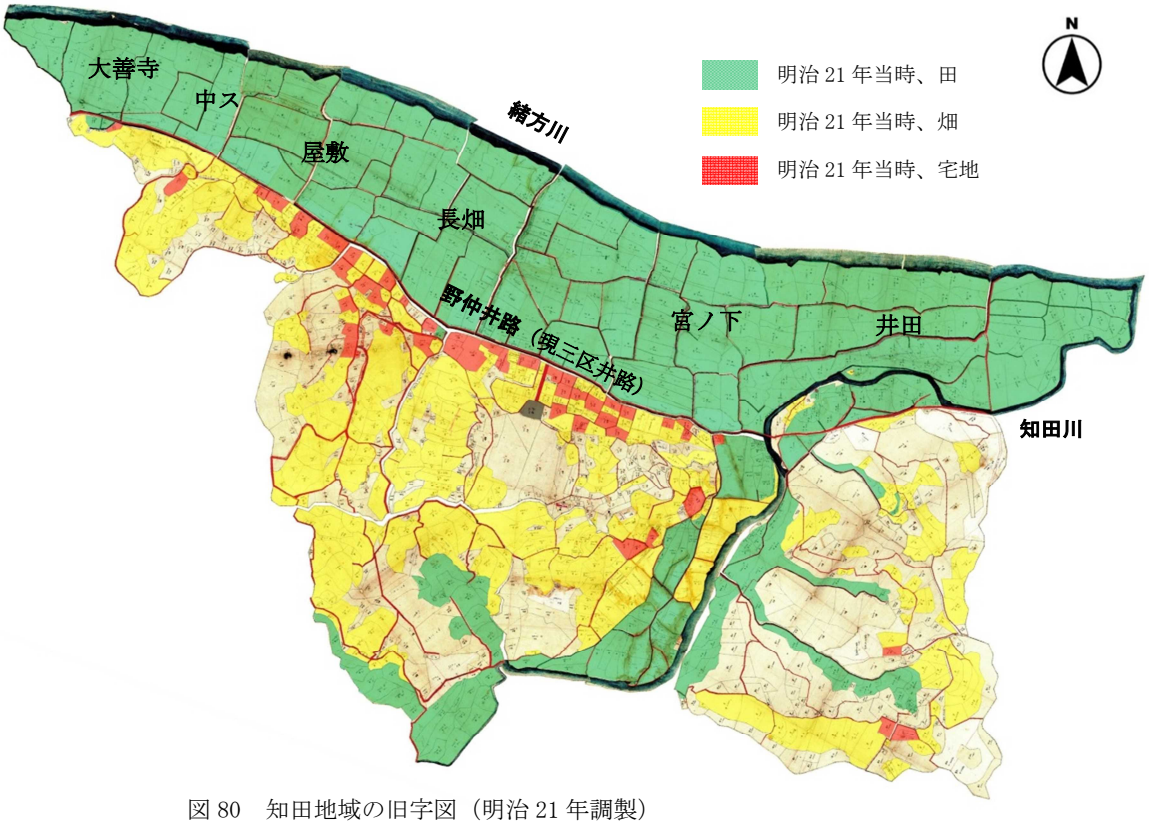


図 80　知田地域の旧字図（明治 21 年調製）

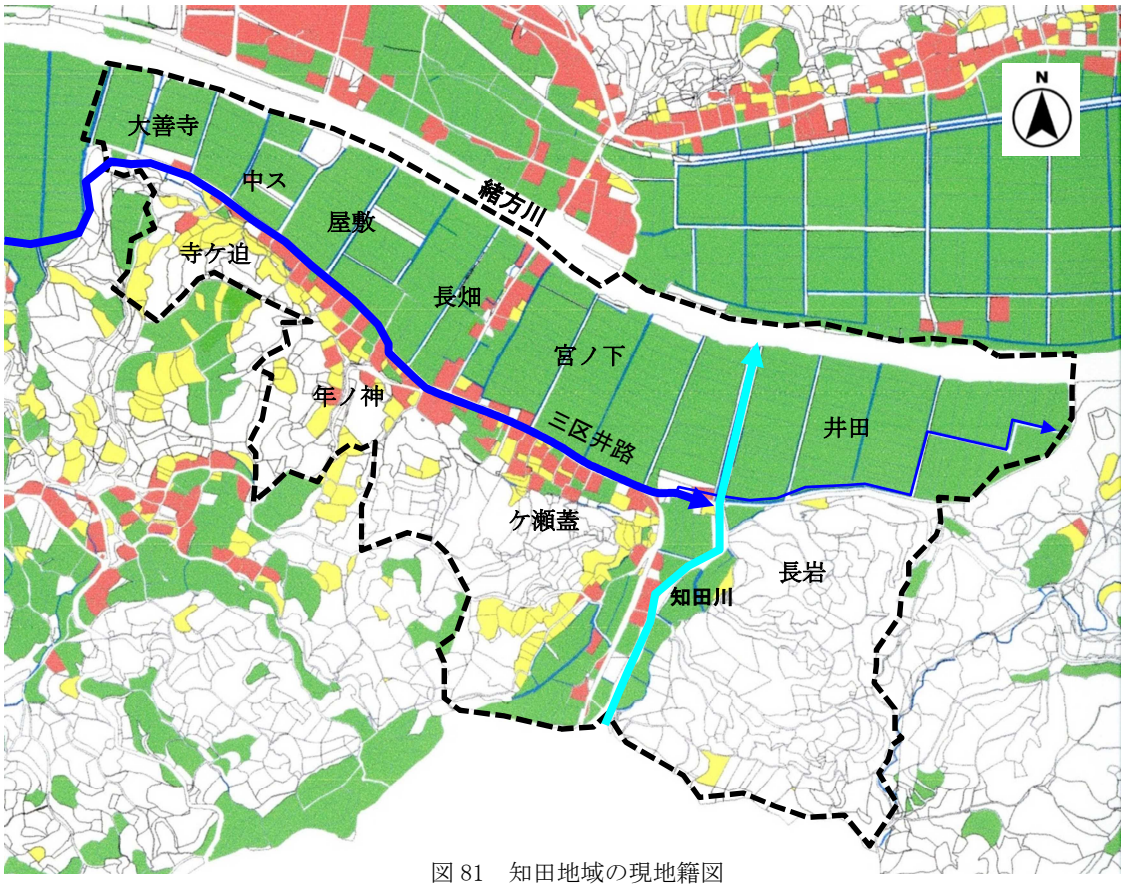


図 81　知田地域の現地籍図

④知田地域のクンバ（汲ん場）

写真 130 は知田地域の汲ん場位置図で、三区（野仲）井路に 11 ヵ所の汲ん場が確認できた。そのうち現在でも使用が確認できたものが 6 ヶ所あり、汲ん場にはタワシなどの洗浄用具が置かれており生活感がある（写真 131、132）。

写真 130　知田地域の汲ん場位置図

写真 131　タワシのある汲ん場（№8）

写真 132　タワシのある汲ん場（№11）

⑤知田地域の景観の構成要素

知田地域は、主に三区（野仲）井路によって灌漑される地域である。三区井路上流域の野仲・小野地域のように明正井路によって灌漑される棚田はない。民家は主に三区井路沿いに立ち並び、北側の広大な圃場を活かした土地利用の形態である。主に稲作が営まれる場所で、一部の圃場でナスがビニールハウス内で栽培されている。野仲井路が育む広大な水田地帯が目を引く景観である。

表 19　知田地域の景観の構成要素

番号	要素名	写真	説明
1	東仙寺橋		昭和 26 年にコンクリート橋が架けられた。平成 3 年の洪水で流失したが翌年新橋が完工した。緒方盆地地域に 2 基ある沈下橋のうちの一つ。
2	鳴瀧橋		大正 11 年 3 月に完成した 5 連のアーチ式石橋。知田・馬場地域を結ぶため建築された。馬場に豊肥線緒方駅が大正 11 年 11 月に開業するため、道路整備が急務となり建築されたもの。鳴瀧橋碑に経緯が詳しく書かれている。平成 5 年の台風 13 号で橋壁面の一部が流失したが、復元された。
3	鳴瀧橋碑		記念碑によると、『明治 26、27 年頃に堅固な木橋を架けていたが、たびたび洪水で流失した。大正 11 年、緒方川対岸の馬場地域に駅舎が開業するため、「車馬連絡を謀るは焦眉の急に逼れり」ということで、大正 10 年 7 月に起工し翌年 3 月に竣工した。』とある。碑の横には、建築費寄進者の寄付金額を記した欄干が立ち並んでいる。
4	基盤整備之碑		昭和 53 年 5 月に完工した農地基盤整備の記念碑で、昭和 58 年に建立された。整備前の田 1 枚の平均面積は 5 a 程度であったが、整備後は平均 20.5 a に拡大し、農業の労働生産性が飛躍的に向上したと記されている。
5	貴船社		応神天皇、菅原神ほかが明治 9 年に合祀されている。「貴布禰大明神神霊廟之記」によると、寛文・元禄年間に社殿の造営が行われたとあるが、現在の社殿の造営時期は不詳。境内には、安政 6 年、慶応 4 年銘の灯籠がある。毎年秋分の日に行われる緒方五千石祭に神輿が御幸する。

番号	要素名	写真	説明
6	川久保橋		知田川を渡河するため大正８年３月に建設された。橋長 10.9m、橋幅 3.7mのアーチ式石橋である。
7	弘法大師像・地神塔		川久保橋の付近に地神塔と弘法大師像が祀られている。弘法大師像は、慶応４年３月 21 日に建立され女性４人の名前が刻まれている。
8	戸ノ山イノコ		知田・天神地域境界付近にあるイノコで、現在も柄杓や漏斗が置かれている。

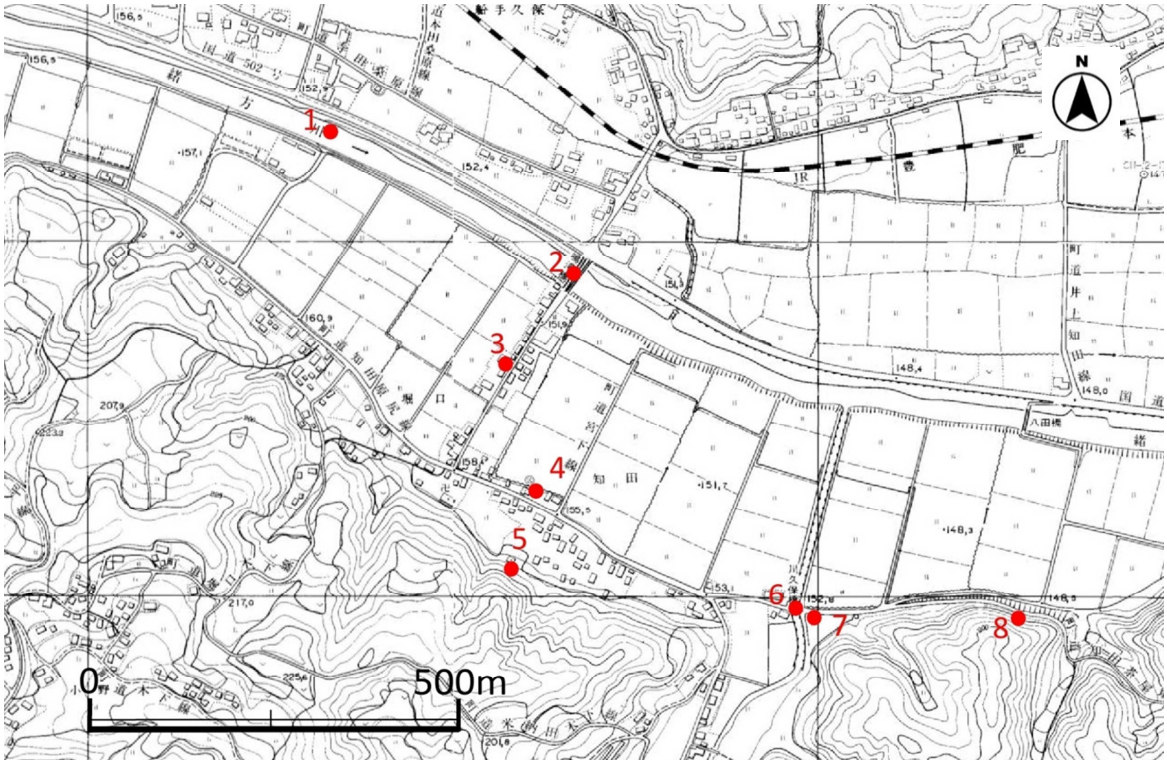


図 82　知田地域の構成要素の位置図